

■高校野球のケーススタディー（第8回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 「申告故意四球」って、どんなルール・・・？

2020年度から高校野球においても「申告故意四球」が導入されましたが、どのようなルールなのでしょうか。また、試合の中では、どのような手順で進められるのでしょうか。教えてください。

2018年度の公認野球規則の改正では、「申告故意四球（守備側チームの監督が故意四球とする意思を示し、投球することなく打者を一塁へ進めることができる）」の取り扱いが追加されました。

しかしながら、高校野球では、これまで運営面での混乱や影響の有無、周知期間等について慎重に議論を要することから、採用を見送ってきました。（[高校野球特別規則 27「申告故意四球の取り扱い」](#)において高校野球では採用しないことを明記していました。）

その後、議論を重ね、運営面での混乱や影響等がないこと、また、当連盟の取組みである投球数制限の一環として、今年度から導入することになりました。（[上記の高校野球特別規則 27](#)を撤廃）

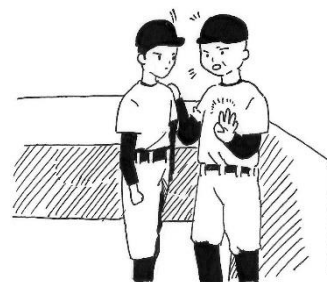
それでは、「申告故意四球」の規定を見てみましょう。

定義7「ベースオンボールス（四球）」

打者が打撃中にボール4個を得るか、守備側チームの監督が打者を故意四球とする意思を審判員に示し、一塁へ進むことが許される裁定である。

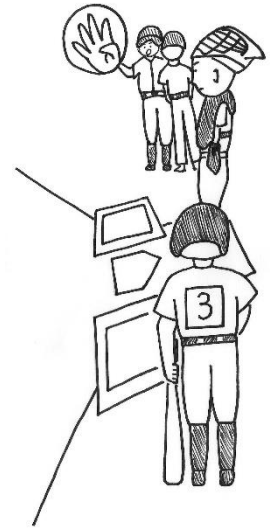
守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合（この場合は、ボールデッドである）、打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁が与えられる。（5.05(b)(1)）

試合の中での「申告故意四球」の運用は、次のとおりです。
各チームの指導者や選手は、手順などをよく理解した上で、
日頃の練習試合等を通じて、スムーズに申告故意四球の運用ができるようにしておきましょう。



【申告故意四球の運用について】

- ① 申告故意四球の通告は、守備側チームのベンチから伝令者が意思を球審に伝える。(この場合は、ボールデッドである。)
- ② 守備側チームが打者を連続して申告故意四球にする意思がある場合は、伝令者が最初の通告時に球審へ伝えることもできる。
- ③ 申告故意四球の打者は、一度バッタースボックスに入らなければならない。その後、球審の指示により一塁へ進む。連続した申告故意四球の場合でも、その時の打者は一度バッタースボックスに入らなければならない。なお、直前の申告故意四球の打者が一塁に到達した後にバッタースボックスに入ることに留意する。
- ④ 球審は、伝令者から通告があった場合は、攻撃チーム、本部、控え審判委員等に分かるように大きなジェスチャーと発声で、打者に一塁へ進むように指示する。
- ⑤ 放送設備がある場合は、場内放送員は打者に「申告故意四球」で一塁を与える放送をする。



《その他》

- ① 投球数にはカウントしない。
- ② 打者の途中のカウントからでも、申告故意四球とする意思を球審に伝えることができる。(その後の投球数はカウントしない)
- ③ 一塁に進んだ打者は、その時の投手の自責点の対象となる。
- ④ 交代したばかりの投手の時に、申告故意四球により打者が一塁に進んだ場合は、投球が一球も投球していないが、5.10(g)の投球義務を果たしたことになる。

[5.10(g)]

ある投手に代わって救援に出た投手は、そのときの打者または代打者がアウトになるか一塁に達するまで、投球する義務がある。

《兵庫県での運用》

選手の人数が少ないチームで、守備時に申告故意四球を告げる伝令者がベンチにいない場合は、伝令者として1塁手又は3塁手(自ベンチに近い方の野手)が監督の申告故意四球の意思を球審に伝える。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
坂田 朋葉さん(3年) 飛田 紀香さん(3年)